

大和市病院事業の設置等に関する条例の一部改正（案）について

1. 背景等

- ・国は、医療機関の経営状態が厳しい状況にあるなか、経営支援を目的に病床削減した医療機関に対して給付金を支給するため、令和 6 年度 補正予算において、病床数適正化支援給付事業として 428 億円を措置しています。
- ・市立病院は、令和 5 年度決算にて 294,846 千円の赤字を、令和 6 年度決算でも令和 5 年度を上回る赤字となっており、厳しい経営状況が続いています。

【令和 5 年度病院事業決算の概要】

- ▶ 病院事業収益が 12,453,918 千円に対し病院事業費用は 12,748,764 千円となっており、差引き 294,846 千円の赤字となりました。
 - ▶ 病床稼働率が 69.5%と対前年度 5.4 ポイント上昇し入院収益は増えた一方で、新型コロナ関連補助金が大幅に減少したことや、費用での人事院勧告による給与費の増加などもあり、支出が収入を上回り 294,846 千円の赤字となったものです。
-
- ・令和 5 年度の市立病院全体での病床稼働率は 69.5%ですが、中でも小児病床の稼働率は 34.7%に留まっており、病床数の適正化が求められています。
 - ・日本小児科学会では、患児の精神安定につながり治療に有益な家族の付添いに関し、家族に身体的・精神的負担を強いている実態があるとして、環境改善を図るよう提言しています。

2. 基本的対応

- ・病院全体の病床において、稼働率の低い小児病床について病床数適正化支援事業を活用し、病床数の適正化を図ります。
- ・削減する病床数は、当該支援事業の申請上限となる 10 床とします。
- ・これにより、小児病床は 58 床から 48 床に、病院全体の病床数は 403 床から 393 床となります。
- ・今回の減床により生じるスペースは、こどもの健やかな成育を確保するため、患児やその家族が安心して入院生活を送れるよう療養環境改善のために活用します。

《具体的な取組み》

- ①小児病棟の 6 床室は病床間隔が狭く、間隔を拡げることで、プライバシー保護を強化し、感染リスクを低減させることが望まれるため一部を 4 床室に変更します。(△4 床)
- ②こどもの入院に際し、付添い入院の家族は簡易ベッドで添寝するなどしており、十分な休息が確保できる病室を整備する必要があることから、5 床室を減床し、付添い入院部屋(2 床室)に改修します。(△3 床)
 - ・改修は、家族が安楽に寝泊りできるようベッドや冷蔵庫、クローゼット等を設置するほか、音や臭いなどにも配慮された空間とできるよう工夫したいと考えており、年明けからの運用開始を見込みます。
- ③24 時間 365 日、急変時に医師が即時対応できるよう 1 床室及び 2 床室を当直室に変更します。(△3 床)

3. 減床による影響評価

- ・新型コロナウイルス感染症の流行・蔓延期(R2～R4)を除く、過去最高の病床稼働率は平成 26 年 2 月の 87.2%、病床数では 351 床となります。
- ・病院事業が収支均衡となる病床稼働率は 90%、病床数では 360 床と見込まれます。
- ・このことから、403 床を 10 床減床し 393 床まで減床した場合であっても、患者受入れや経営改善への支障は生じないものと考えます。
- ・10 床の減床で 41,040 千円に上る支援金が見込まれます。

【病院事業会計予算ベースでの収支均衡の試算】

- ・令和7年度当初予算をベースとした試算によりますと、病床稼働率90%、病床数では360床でおおよそ収支が均衡します。

【単位：千円】

	事業収益	事業費用	純損益	病床稼働率
R7 当初予算	13,278,642	13,955,845	△677,203	76.2% (307 床)
R7 当初予算ベースでの収支均衡試算	14,453,642	14,453,845	△203	90.0% (360 床)

【病床稼働率の年度推移】

年度	10 年間の推移 (新型コロナウイルス感染症の流行・蔓延期 (R2～R4) を除く)										
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R5	R6	平均
年度平均 (%)	79.3	79.3	81.0	80.5	74.3	70.9	73.9	75.8	69.5	68.2	75.3
病床数 (床)	320	320	326	324	299	286	298	305	280	275	303
月平均最大値 (%)	84.3	87.2	86.1	86.7	77.8	80.1	80.5	80.6	75.4	77.1	—
病床数 (床)	340	351	347	349	314	323	324	325	304	311	—
月	2 月	2 月	3 月	4 月	6 月	2 月	2 月	6 月	9 月	2 月	

【各病棟稼働率の年度推移】

病棟 (主な診療科)	年度平均病床稼働率 (%)				
	(新型コロナウイルス感染症の流行・蔓延期 (R2～R4) を除く)				
	H30	R1	R5	R6	R7.6
4 階東病棟 (産婦人科ほか)	82.5	79.5	72.4	58.1	64.3
4 階南病棟 (小児科)	40.9	34.9	34.7	39.7	41.8
5 階東病棟 (外科、脳神経外科ほか)	80.0	81.3	79.8	76.1	85.3
5 階南病棟 (消化器内科ほか)	86.3	87.6	82.4	78.5	80.9
6 階東病棟 (腎臓内科、泌尿器科ほか)	84.8	88.4	82.6	77.9	70.8
6 階南病棟 (循環器内科ほか)	83.6	89.4	83.1	87.8	83.7
7 階東病棟 (整形外科ほか)	75.2	87.1	74.0	72.2	89.0
7 階南病棟 (呼吸器内科ほか)	70.9	74.3	59.7	65.4	61.3

《参考》

令和 6 年度（国）補正予算（第 1 号）

◆医療需要等の変化を踏まえた医療機関に対する支援 428 億円

【病床数適正化支援事業】

概 要：医療機関の経営状態が厳しい状況にある中、経営支援を目的に病床削減した医療機関に対して給付金を支給するもの。

条 件：令和 7 年 9 月末までに減床の届出を行った医療機関に対し 1 床当たり 4,104 千円を支給する（国 10/10）。

申請状況ほか：国では、当初 8,000 床程度を見込み 428 億円を予算措置していましたが、全国から 5 万床超の申請があったため、急遽、病床数適正化支援事業以外の他の事業で生じた予算残額を活用するなどして、約 463 億円、計 12,000 床程度まで増やした一方で、1 医療機関あたりの支給金の上限を 10 床までに制限しています。